

本発表の主張

- ① 動詞の意味合成には意味構造で行われるものと統語構造で行われるものの2種類がある。
- レキシコンとシンタクスは別々の文法モジュール (生成装置) である。
 - ✓ 両者にはインターフェイスがある!
- ② (項の具現化に関して) 意味構造に存在する語彙情報が統語構造に反映されない場合がある。
- レキシコンはシンタクスよりも「複雑」である。
 - ✓ レキシコンからシンタクスへの写像は「全射的」(surjective) になる!

1. 英語の非能格動詞の構文的意味拡張

(1) a. She laughed.

[x ACT]

b. She laughed a cheerful smile. (同族目的語構文)

[[x ACT] CAUSE [y BECOME EXISTED]]

c. She laughed her way out of the room. (way 構文)

[[x ACT] CAUSE [y MOVE]]

d. She laughed her excitement. (reaction object 構文)

[[x ACT] CAUSE [y BECOME EXPRESSED]]

e. She laughed herself sick. (強い結果構文)

[[x ACT] CAUSE [y BECOME z]]

(2) The professor laughed the student out of the room.

○教授が学生を笑い、学生が部屋を出ていった

OK[[the professor ACT<laughing> ON the student] CAUSE [the student MOVE out of the room]]

×教授が原因で、学生が笑いながら部屋を出ていった

*[the professor CAUSE [[the student ACT<laughing>] & [the student MOVE out of the room]]]

(cf. 影山 1996, 由本 2005)

×教授が学生を笑い、教授が部屋を出ていった

*[[the professor ACT<laughing> ON the student] CAUSE [the professor MOVE out of the room]]

(cf. 影山 1996)

★ 3層分裂 VP 構造 (Fujita 1996)

(3) [_{VP} the professor_i [_V V_{ACT} [_{VP} t_i [_V V_{CAUSE} [_{VP} the student [_V V_{MOVE} out of the room]]]]]]]

帰結①: 直接目的語の制約 (Levin and Rappaport Hovav 1995)

- (4) a. John broke the vase to pieces. (5) a. John shouted himself horse.
b. *John broke the vase to tears. b. *John shouted horse.

帰結②: 使役事象の制限

- (6) a. *The clown juggled the children laugh(ing). (影山 1996: 282)
b. *The snow melted the road slushy. (Levin and Rappaport Hovav 1995: 39)
c. *The sun set the children go(ing) home. (影山 1996: 282)

★ 動詞の意味分類

- テスト1：動詞の意味に「所有」の概念があるか？
- テスト2：動詞の意味に「移動」の概念があるか？

<Type A> 所有変化動詞（「所有」：○、「移動」：×）

- (28) a. 太郎が {花子に／*花子の家に} 指輪をあげた。
b. 太郎が {花子に／??花子へ／*花子まで} 指輪をあげた。
- (29) a. 授与動詞：与える、あげる、売る、貸す、預ける
b. 未来達成型授与動詞：提供する、約束する、割り当てる
c. 伝達動詞：伝える、教える、連絡する、紹介する、見せる、告げる、示す

<Type B> 使役移動動詞（「所有」：×、「移動」：○）

- (30) a. 太郎が {*花子に／花子の家に} 荷物を運んだ。
b. 太郎が {花子の家に／花子の家へ／花子の家まで} 荷物を運んだ。
- (31) a. 注入動詞：注(そそ)ぐ、注(つ)ぐ、入れる
b. 運搬動詞：運ぶ、戻す、移す、動かす
c. 放出動詞：投げる、捨てる、放す、放つ
d. 散布動詞：撒く／播く／蒔く

<Type C> 位置変化動詞（「所有」：×、「移動」：×）

- (32) a. 太郎が {*花子に／花子の机に} 花束を置いた。
b. 太郎が {花子の机に／??花子の机へ／*花子の机まで} 花束を置いた。
- (33) a. 配置動詞：置く、並べる、据える、配置する
b. 積載動詞：乗せる／載せる、積む、積載する
c. 塗布動詞：塗る、張る／貼る
d. 添加動詞：加える、添える、付ける

<Type D> 使役移動所有変化動詞（「所有」：○、「移動」：○）

- (34) a. 太郎が {花子に／花子の家に} 新聞を届けた。
b. 太郎が {花子に／??花子へ／*花子まで} 新聞を届けた。
c. 太郎が {花子の家に／花子の家へ／花子の家まで} 新聞を届けた。
- (35) 送る、届ける、渡す、配る、返す

★ 3項動詞文の統語構造

<Type A>

- (36) a. 太郎は [3人以上の友達_i] に [[そいつ_iが e_j 欲しがった] 服_j] をあげた。
b. 太郎は [[そいつ_iが e_j 欲しがった] 服_j] を [3人以上の友達_i] にあげた。
- (37) a. 太郎は [3着以上の服_j] を [[e_i それ_jを欲しがった] 友達_i] にあげた。
b. *太郎は [[e_i それ_jを欲しがった] 友達_i] に [3着以上の服_j] をあげた。
- (38) a. 情報が (ジョンによって) メアリーに与えられた。
b. メアリーが (ジョンによって) 情報を与えられた。

<Type B>

- (39) a. 太郎は [3か所以上の棚_i] に [[そこ_iに e_j あった] 本_j] を戻した。
b. *太郎は [[そこ_iに e_j あった] 本_j] を [3か所以上の棚_i] に戻した。

- (40) a. 太郎は [3冊以上の本_j] を [[e_i それ_jがあった] 棚_i] に戻した。
 b. [Ⓜ]太郎は [[e_i それ_jがあった] 棚_i] に [3冊以上の本_j] を戻した。
- (41) a. ワインが (太郎によって) 花子のグラスに注がれた。
 c. *花子のグラスが (太郎によって) ワインを注がれた

<Type C>

- (42) a. 太郎は [3軒以上のコンビニ_i] に [[そこ_iで e_j買った] 傘_j] を置き忘れた。
 b. *太郎は [[そこ_iで e_j買った] 傘_j] を [3軒以上のコンビニ_i] に置き忘れた。
- (43) a. 太郎は [3本以上の傘_j] を [[e_iそれ_jを買った] コンビニ_i] に置き忘れた。
 b. [Ⓜ]太郎は [[e_iそれ_jを買った] コンビニ_i] に [3本以上の傘_j] を置き忘れた。
- (44) a. 花束が (太郎によって) 花子の机に置かれた。
 b. *花子の机が (太郎によって) 花束を置かれた。

<Type D>

着点が有生物の場合

- (45) a. 太郎は [3人以上の客_i] に [[そいつ_iが e_j注文した] 商品_j] を届けた。
 b. 太郎は [[そいつ_iが e_j注文した] 商品_j] を [3人以上の客_i] に届けた。
- (46) a. 太郎は [3つ以上の商品_j] を [[e_i それ_jを注文した] 客_i] に届けた。
 b. *太郎は [[e_i それ_jを注文した] 客_i] に [3つ以上の商品_j] を届けた。
- (47) a. 手紙が (花子によって) 太郎に渡された。
 b. 太郎が (花子によって) 手紙を渡された。
 (cf. 太郎が花子から手紙を渡された。)

着点が無生物の場合

- (48) a. 太郎は [3か所以上の公園_i] に [[そこ_iから e_j盗んだ] 銅像_j] を返した。
 b. *太郎は [[そこ_iから e_j盗んだ] 銅像_j] を [3か所以上の公園_i] に返した。
- (49) a. 太郎は [3体以上の銅像_j] を [[e_i それ_jを盗んだ] 公園_i] に返した。
 b. [Ⓜ]太郎は [[e_i それ_jを盗んだ] 公園_i] に [3体以上の銅像_j] を返した。
- (50) a. 橋が (自治体によって) 向こう岸に渡された。
 b. *向こう岸が (自治体によって) 橋を渡された。

☆ 意味構造と統語構造の対応

(51) Type A

- a. 意味構造 : [[x ACT] CAUSE [z HAVE y]]
 b. 統語構造 : [_{VP} DP_x [_v [_{VP} t_i [_v [_{VP} DP_z [_v DP_y V_{HAVE}]]] v_{CAUSE}]]] v_{ACT}]]

(52) Type B

- a. 意味構造 : [[x ACT] CAUSE [y MOVE TO-z]]
 b. 統語構造 : [_{VP} DP_x [_v [_{VP} t_i [_v [_{VP} DP_y [_v [PP DP_z ni] V_{MOVE}]]] v_{CAUSE}]]] v_{ACT}]]

(53) Type C

- a. 意味構造 : [[x ACT] CAUSE [y BE AT-z]]
 b. 統語構造 : [_{VP} DP_x [_v [_{VP} t_i [_v [_{VP} DP_y [_v [PP DP_z ni] V_{BE}]]] v_{CAUSE}]]] v_{ACT}]]

(54) Type D

- a. 意味構造 : [[x ACT] CAUSE [[y MOVE-TO z] BECOME [z HAVE y]]]
 b. 統語構造 : [_{VP} DP_x [_v [_{VP} t_i [_v [_{VP} DP_y [_v [PP DP_z ni] V_{MOVE}]]] v_{CAUSE}]]] v_{ACT}]] (MOVE を選択)
 [_{VP} DP_x [_v [_{VP} t_i [_v [_{VP} DP_z [_v DP_y V_{HAVE}]]] v_{CAUSE}]]] v_{ACT}]] (HAVE を選択)

5. まとめ

参照文献

- Anderson, Stephen R. (1971) On the role of deep structure in semantic interpretation. *Foundations of Language* 7: 387-396.
- Beavers, John T. (2006) *Argument/oblique alternations and the structure of lexical meaning*. Unpublished doctoral dissertation, Stanford University.
- Chomsky, Noam (2013) Problems of projection. *Lingua* 130: 33-49.
- Chomsky, Noam (2015) Problems of projection: Extensions. In: Domenico, Hamann and Matteini (eds.) *Structures, strategies and beyond: Studies in honour of Adriana Belletti*, 3-16. Amsterdam: John Benjamins.
- Fujita, Koji (1996) Double objects, causatives and derivational economy. *Linguistic Inquiry* 27: 146-173.
- 藤田耕司・松本マスマ (2005) 『語彙範疇(I) : 動詞』東京 : 研究社.
- Goldberg, Adel E. (1995) *Constructions: A construction grammar approach to argument structure*. Chicago: University of Chicago Press.
- Hoji, Hajime (1985) *Logical form constraints and configurational structure in Japanese*. Unpublished doctoral dissertation, University of Washington.
- Jeffries, Lesley and Penny Willis (1984) A return to the *spray paint* issue. *Journal of Pragmatics* 8: 715-729.
- 影山太郎 (1993) 『文法と語形成』東京 : ひつじ書房.
- 影山太郎 (1996) 『動詞意味論 : 言語と認知の接点』東京 : くろしお出版.
- 影山太郎 (2013) 「語彙的複合動詞の新体系 : その理論的・応用的意味合い」影山太郎 (編) 『複合動詞研究の最先端 : 謎の解明に向けて』3-46. 東京 : ひつじ書房.
- Kishimoto, Hideki (2001) The role of lexical meanings in argument encoding: Double object verbs in Japanese. *Gengo Kenkyu* 120: 35-65.
- Levin, Beth and Malka Rappaport Hovav (1995) *Unaccusativity: At the syntax-lexical semantics interface*. Cambridge, MA: MIT Press.
- 松本曜 (1998) 「日本語の語彙的複合動詞における動詞の組み合わせ」『言語研究』114: 37-83.
- Matsuoka, Mikinari (2003) Two types of ditransitive constructions in Japanese. *Journal of East Asian Linguistics* 12: 171-203.
- Pustejovsky, James (1995) *The Generative Lexicon*. Cambridge, MA: MIT Press.
- Rappaport Hovav, Malka and Beth Levin (1998) Building verb meaning. In: Miriam Butt and Wilhelm Geuder (eds.) *The projection of arguments: Lexical and compositional factors*, 97-134. Stanford: CSLI.
- Sadakane, Kumi and Masatoshi Koizumi (1995) On the nature of “dative” particle *ni* in Japanese. *Linguistics* 33: 5-33.
- 斎藤衛 (2014) 「複合動詞の形成と選択制限 : 他動性調和の原則を手掛かりとして」岸本秀樹・由本陽子 (編) 『複雑述語研究の現在』207-233. 東京 : ひつじ書房.
- 由本陽子 (2005) 『複合動詞・派生動詞の意味と統語 : モジュール形態論から見た日英語の動詞形成』東京 : ひつじ書房.
- 由本陽子 (2013) 「語彙的複合動詞の生産性と 2 つの動詞の意味関係」影山太郎 (編) 『複合動詞研究の最先端 : 謎の解明に向けて』109-142. 東京 : ひつじ書房.